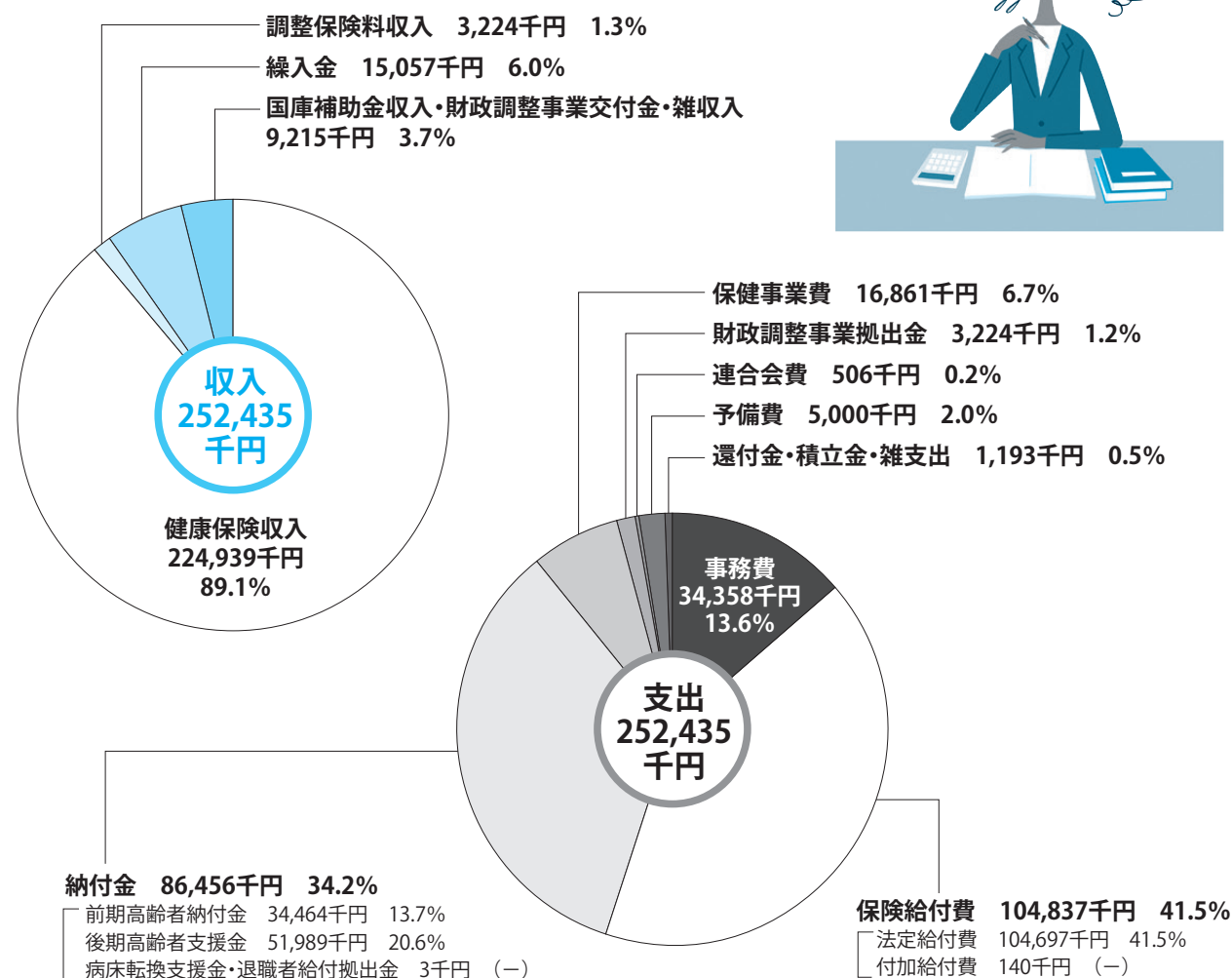


○ 収支の割合 ○



※ 四捨五入の影響で 100% になりません。

令和 2 年度

健康づくりのお手伝い

当健保組合では、みなさんの健康づくりをお手伝いしてまいります。
下記の事業を積極的に活用して病気予防と健康づくりにお役立てください。

- 特定健診・人間ドック
40歳以上の被保険者・被扶養者を対象に年1回実施
- 特定保健指導
対象者に実施
- 生活習慣病健診
被保険者・被扶養者全員を対象に実施
- 福利厚生サービス
「ベネフィットステーション」の利用補助
- スポーツクラブ、宿泊、育児、介護、レジャー、グルメ、ショッピングなど、幅広いサービスが受けられます。

病気の予防のために

保健・衛生知識の普及のために

- ホームページの開設
- 医療費通知（3カ月ごと）
- 保健図書の配布（新人対象）

令和2年度 予算と事業計画決まる

単年度収支で赤字の予算に

去る2月25日に開催された第72回組合会において、当健保組合の令和2年度予算と事業計画が可決・承認されましたので、そのあらましをお知らせします。

社会の少子高齢化が急速に進行しています。令和元年版『高齢社会白書』によると65歳以上の高齢者人口は3,558万人で、過去最高となりました。また、高齢者の総人口に占める割合は、1950年では4・9%でしたが、2018年には28・1%にまで上昇しています。実に4人に1人以上が高齢者となっています。

加齢に伴い病気のリスクが上昇するため、国民医療費は年々増加し続けています。全国の健保組合は、高齢者医療制度に対して納付金を拠出して、財政的に支えています。しかし、社会の高齢化に伴い拠出額は増加傾向にあり、制度を支える側である健保組合自身が、厳しい財政状況で苦しんでいます。

2022年以降は、団塊の世代が後期高齢者へ移行しはじめることから、拠出額のさらなる増加が懸念されます。

当健保組合においても厳しい財政状況が続いています。令和2年度の予算総額は、前年度より803万6千円少ない2億5243万5千円です。収入の89%が事業主と被保険者のみなさんから納めていただく健康保険収入（国庫負担金収入含む）です。前年度より16万8千円多い2億2493万9千円を計上しています。

保険料だけでは必要な額を賄えないため、およそ1500万円を積立金から繰り入れて、収支を均衡させました。

▼ 収入



▼ 支出



支出のおよそ41%は、みなさんやご家族の医療費や各種給付金に充てられる保険給付費です。前年度より102万8千円少ない1億483万7千円を計上しています。

高齢者医療制度への納付金は、前年度より70万8千円少ない8645万6千円です。減少したとはいえ、それでもなお支出全体の34%を占めており、大きな財政的負担となっています。

厳しい財政状況ですが、みなさんの健康づくり、疾病予防を推進するための事業として、保健事業費には前年度より多い1686万1千円を計上しております。健診や人間ドックの補助、そして保健指導などを通して、みなさんの健康管理をサポートしてまいります。積極的に活用して、健康管理にお役立てください。

以上の結果、令和2年度は1428万7千円の赤字予算となりました。平成30年度に健康保険料率を引き上げたにもかかわらず、これで9年連続赤字の予算編成となりました。

健保組合は、事業主と被保険者のみなさんが保険料を出し合って運営しています。現在の料率を維持できれば、会社の負担も、みなさんのご負担も増やさずに済みます。日々の健康管理を通して病気の予防を心がけ、医療費の節減にご協力をお願いいたします。